

歯科薬理学

講師	山口 優	実施時期 単位数	第2学年前期 1単位 (15時間)	実務経験	—
一般目標 (GIO)	薬物の性質、薬理作用、作用機序および副作用を理解するために、疾病の回復を促進する薬に関する基本的知識を習得する。				
授業概要	一年次の薬理学の延長線上にあり、各種疾患との関連性で講義します。保存領域や外科領域では多くの種類の薬物が複雑に使われます。特に歯科臨床でよく使われる薬物に関しては、歯科的術式と関連付けながら講義を進めたいと思っています。歯科以外の医療で使われる薬物についても、概略を説明します。				
学習方法	講義				
成績評価の方法	定期試験100%				
教科書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 最新歯科衛生士教本「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学」第2版 医歯薬出版				
履修上の注意	広く医療全般の紹介も兼ねて講義するが、特に歯科臨床と関連性の深いものに関しては、日常的に臨床の場で、患者に適用したり、器具の消毒などに使用するものであり、しっかりと知識を身につけてほしい。				
参考書	必要があれば適宜紹介あるいはプリントにて配布する。 加藤・篠田監修 現代歯科薬理学 第5版 医歯薬出版				
実務経験のある教員 (概要、科目との関連性)	歯科医院における診療経験があり、一般歯科において実際に薬剤がどのように使用されているかの実践的な情報提供を行う。				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SBOs)
1	末梢神経系と薬(神経衝撃の伝導と伝達、神経伝達物質と受容体)、中枢神経系と薬(全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、抗パーキンソン病薬)	①末梢神経系の構造と機能を説明できる。 ②自律神経系の神経伝達物質と受容体の種類及び遮断薬を説明できる。 ③神経筋接合部の神経伝達物質と受容体及び遮断薬を説明できる。 ④主な全身麻酔薬の種類と作用様式を説明できる。 ⑤主な催眠薬・抗不安薬の種類と特徴を説明できる。 ⑥抗パーキンソン病薬について説明できる。
2	痛みと薬(痛みの受容と痛覚伝導路、麻薬性鎮痛薬と関連薬物、内因性発痛物質、解熱鎮痛薬、疼痛性知覚麻痺薬)	①内因性発痛物質について説明できる。 ②麻薬性鎮痛薬と関連薬物の薬理作用を説明できる。 ③オピオイド受容体を説明できる。 ④解熱鎮痛薬を説明できる。 ⑤疼痛性知覚麻痺作用を説明できる。 ⑥酸性非ステロイド性抗炎症薬の適用について説明できる。 ⑦局所麻酔薬の適用について説明できる。
3	炎症と薬(炎症の5大徴候、炎症のケミカルメディエーター、抗炎症薬)、アレルギー性の炎症	①炎症の5大徴候を説明できる。 ②主な炎症のケミカルメディエーターの生合成について説明できる。 ③ステロイド性抗炎症薬の作用機序と副作用を説明できる。 ④主な酸性非ステロイド性抗炎症薬の作用機序と副作用を説明できる。 ⑤アレルギー性炎症と治療薬を説明できる。
4	局所麻酔薬(痛覚伝導の遮断、作用部位のpHの影響、血管収縮薬の併用、局所麻酔薬の種類)	①局所麻酔薬の作用機序を説明できる。 ②血管収縮薬を添加する目的を説明できる。 ③麻酔薬の効果に影響を与える因子について説明できる。 ④局所麻酔薬の種類と代表する薬物を説明できる。 ⑤局所麻酔薬の投与方法を説明できる。 ⑥局所麻酔薬の副作用を説明できる。
5	循環・呼吸器系と薬	①循環器系に作用する主な薬物の薬理作用と作用機序及び副作用を説明できる。 ②呼吸器系に作用する主な薬物の薬理作用と作用機序及び副作用を説明できる。
6	血液と薬(止血機構、局所性止血薬、全身性止血薬、抗凝固薬、抗血小板薬、血栓溶解薬、抗貧血薬)	①止血機構を概説できる。 ②局所性止血薬を説明できる。 ③全身性止血薬を説明できる。 ④主な抗凝固薬(ヘパリン、ワルファリン)の作用機序を説明できる。 ⑤抗血小板薬の作用機序を説明できる。 ⑥血栓溶解薬の作用機序を説明できる。
7	感染症と薬(化学療法と抗菌薬、抗菌スペクトル、選択毒性、殺菌性抗菌薬と静菌性抗菌薬、有効血中濃度、耐性、消毒薬)	①抗菌薬の選択毒性について概説できる。 ②抗菌スペクトルについて説明できる。 ③有効血中濃度について説明できる。 ④耐性菌と交叉耐性について説明できる。 ⑤殺菌性抗菌薬と静菌性抗菌薬を分類できる。 ⑥主な抗菌薬を作用機序により分類し、それぞれの特徴を説明できる。 ⑦主な消毒薬の分類と薬理作用の特徴を説明できる。
8	歯内治療と薬、歯周治療と薬、口腔粘膜疾患と薬、う蝕予防と薬	①う蝕の予防に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。 ②歯内療法に用いる薬の薬理作用を説明できる。 ③歯周治療に用いる薬の薬理作用を説明できる。 ④洗口薬を説明できる。 ⑤口腔粘膜疾患に用いる薬を説明できる。